



213号 発行所/ 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者/ 病院長 林 弘人 印刷/(株) アートネクスト

関門医療センター

Speed Standard&Safety Smile



子宮がん検診とは、
女性特有のがんである「子宮がん(子宮頸がん+子宮体がん)」リスクの発見を目的とする検査コースの総称です。女性にとって子宮がんは、がんの部位別死亡数(2016年)で8位。子宮がんリスクの早期発見は、受診者や家族はもとより社会的にも大きな意味を持っています。

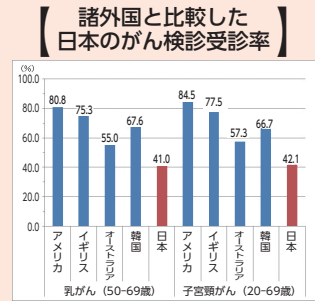
コロナ下の 検診の重要性

子宮がん検診



産婦人科医長 林 公一

子宮がんについては、本邦では子宮の入り口に出来る子宮頸がんが比較的多く、発症は20代から目立ち始め、30代後半から40代前半という若い年代にピークを迎えます。従って若い世代の検診が必要ですが残念ながら検診率が低いことが課題とされています。一般的に日本人のがん検診受診率は上昇傾向にあるものの、アメリカでは子宮頸がんの検診受診率は70〜80%と言われているのに対し、日本では30〜40%に止ま



子宮がん検診とは、女性特有のがんである「子宮がん(子宮頸がん+子宮体がん)」リスクの発見を目的とする検査コースの総称です。女性にとって子宮がんは、がんの部位別死亡数(2016年)で8位。子宮がんリスクの早期発見は、受診者や家族はもとより社会的にも大きな意味を持っています。

乳がん検診は、急ぎではあなくても、検診を受けるがん検診は、多くの方に「不要不急」とみなされ、検診をキャンセル、延期される方が目立ちました。当センターでの乳がん検診は、4・5月は前年比23%まで減少、6・7月は67%まで回復してきましたが、まだまだ検診を躊躇される方が多いのが現状です。



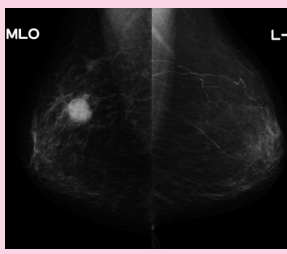
マンモグラフィによる乳がん検診は、乳がんによる死亡率を減少させることが明らかです。その検診を受けないとどうなるのでしょうか。触ってもわからない、マンモでしか描出できないような小さな段階では気づかず、気づいた時にはすでにがんが大きく進行している、早く見つけて治療していれば...という悲しい結果になります。

乳がん検診は、急ぎではあなくても、検診を受けるがん検診は、多くの方に「不要不急」とみなされ、検診をキャンセル、延期される方が目立ちました。当センターでの乳がん検診は、4・5月は前年比23%まで減少、6・7月は67%まで回復してきましたが、まだまだ検診を躊躇される方が多いのが現状です。

乳がん検診は、急ぎではあなくても、検診を受けるがん検診は、多くの方に「不要不急」とみなされ、検診をキャンセル、延期される方が目立ちました。当センターでの乳がん検診は、4・5月は前年比23%まで減少、6・7月は67%まで回復してきましたが、まだまだ検診を躊躇される方が多いのが現状です。



外科医長 長島 由紀子



お仕事紹介



言語聴覚士 友里 由里 (平成30年度採用)

Q 具体的にどんな仕事をしていますか?

私たちはことばによってお互いの気持ちや考えを伝え合い生活をしています。言語聴覚士はことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。脳疾患などの病気や交通事故、発達上の問題によって引き起こされる失語症、声・発音の障害、食事がうまくできないという患者さんに対して、一人ひとりの症状に合ったリハビリプログラムを考え訓練を行っています。

Q なぜこの職業を選んだのですか?

私は大学卒業後一般企業で事務職として勤めていました。毎日、パソコンと向かい合う事務作業をこなしていましたが、いつしか漠然と立てる仕事ができたらなあ、と強く思うようになり、調べていくうちに、コミュニケーションや食べるという人として生きていくために欠かすことができない大切なことに困難を抱えた方に対して支援する「言語聴覚士」という仕事があることを知りました。全く異なるフィールドへの挑戦ということですが、かなり悩みましたが、後悔しないために専門学校に行くという選択肢を選びました。

必要なため、受験資格を得るために言語聴覚学科のある養成校で専門知識や技能を習得しなければいけません。Q 今の仕事をするためにどのような知識が必要ですか? 専門学校では言語聴覚



言語聴覚士の役割を果たしたいと思い、急性期病院を中心に就職活動を進めていました。その中でも国立病院機構を選んだのは、地域医療の貢献に力を入れていること、民間ではアプローチが困難な神経筋疾患といった病気のセーフティーネットとして支えていることに魅力を感じたからです。

Q 仕事に就いてからのキャリア形成について

日本言語聴覚士学会や県士会、関連学会(日本高次脳機能障害学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本デイケア臨床研究会など)が主催する講習会を受講することもでき、より質の高いリハビリテーションを実施できることを目標に日々の臨床に励んでいます。特に、急性期病院では摂食嚥下障害の患者さんも多く、嚥下障害への関わり方、アプローチ方法が重要な役割を果たしていると思います。今後は臨床経験をさらに積み「日本摂食嚥下リハビリテーション学会」の認定士資格を取得したいと考えています。

Q 今の仕事をするためにどんな資格が必要ですか?

言語聴覚士の国家資格が

急性期病院で必要とされる

寄附の御礼

令和2年7月に下関バイオマスエナジー合同会社・下関バイオマス発電所様より式萬円のご寄附を賜りました。医療現場の現状をご理解いただき、職員一同深く感謝しております。新型コロナウイルス感染拡大防止に活用させていただきます。

山口県健康福祉功労者 (優良看護職員) 知事表彰

3月まで在職された三輪美智子さんが、令和2年度山口県健康福祉功労者(優良看護職員)知事表彰を受賞されました。多年にわたり看護業務に従事した功績を評価されました。

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号
国立病院機構 関門医療センター
診療受付時間: 午前8:30~11:30
午後(各診療科外来にお問い合わせください)
※休診日: 土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29~1/3) ※臨時休診は各外来窓口に表示

★地域連携室の直通 TEL 083-241-1191 (メッセージの後に2561-2377)
FAX 083-241-1302
★代表 TEL 083-241-1199
FAX 083-241-1301
★透析センター TEL 083-241-1308
FAX 083-241-1308
https://kanmon.hosp.go.jp/

超音波検査(写真2)は両足の付け根から足先までゼリーを塗り、プローブをあてながら観察していきます。痛みを伴うことはありません。検査は立位で行い約30分程度かかります。

◇検査◇

受付、問診後診察となります。下肢静脈瘤を認める場合はその後超音波検査を受けていただきます。超音波検査では静脈の逆流の有無、程度、逆流の範囲等を観察します。検査は同日を希望される場合は同日午後、都合が悪い場合は別日程で予約をお取りします。

◇来院後◇

紹介状なしでも受診可能です(ただし紹介状なしの初診の場合初診時選定療養費5500円がかかります)。予約なしで来院、当日受診を希望される場合も対応しています。

◇受診前◇

下肢静脈瘤診療の流れ

(静脈瘤の程度により所要時間は前後します)。

◇説明◇

検査後説明を行います。検査結果をふまえて治療方法を提案します。静脈瘤のタイプ

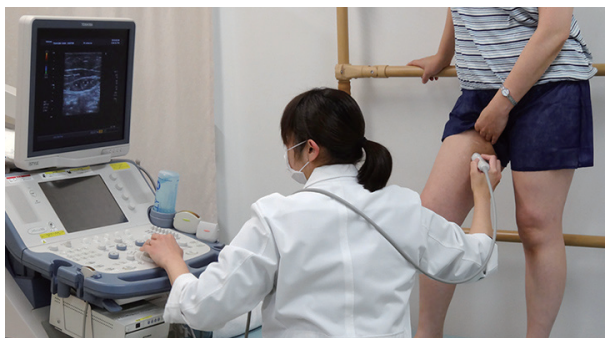
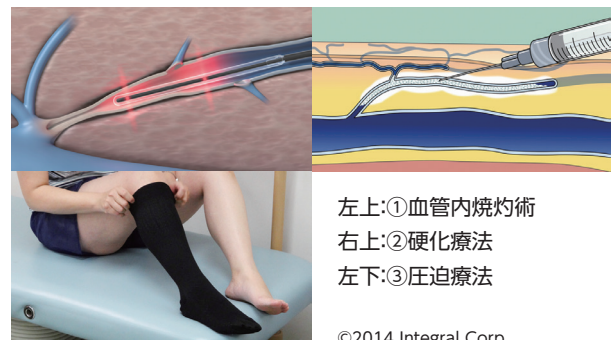


写真2 ©2014 Integral Corp.

により治療方法は大きく①血管内焼灼術、②硬化療法、③圧迫療法に分類されます(またそれぞれを組み合わせた外来日(水曜、金曜)以外に検査を受けた場合は治療方法の提案は別日になります)。

検査結果をふまえて治療方法を提案します。静脈瘤のタイプ

ここまでを可能な限り受診日に行います。午前中に診察、午後には検査、結果説明、治療方針(日程の決定を行います。時間はかかりますが通院回数できるだけ少なくできるようにしています)。



©2014 Integral Corp.

②硬化療法の場合。静脈内に硬化剤を注入する治療です。1回約30分程度です。改善状態に応じて複数回行うこともあります。治療

術後の通院日は手術翌日、1週間

後、3か月後の3回として静脈瘤に関する説明映像を放送しています。興味のある方は視聴して下さい。どなたでも図書室での視聴が可能です。

また院内の自主放送で下肢

※当該デジタルコンテンツを使用した資料等には以下のとおり著作権表示をいたします。©2014 Integral Corp.

心臓血管外科開設から1年



心臓血管外科医長 村上 雅憲

2019年4月に心臓血管外科が新設され約1年半が経過しました。当科では頭頸部を除く動脈疾患、静脈疾患を対象に診療(診断から治療まで)を行っています。今回は当科で現在行っている下肢静脈瘤に対する診療の流れを紹介いたします。内容は2020年9月時点のもので代表的経過について記載しています。症例により細かい点は異なることもあり、ご了承ください。当科の外来日は水曜日と金曜日です。



写真1 ©2014 Integral Corp.

下肢静脈瘤は、足の血管がコブのようにふくれ病気で、決して珍しい病気ではなく、10人に1人はこの病気にかかっているとされています。人間は立つて生活をするため、どうしても足の静脈の圧が上がりやすく、静脈瘤になりやすくと考えられています。一旦、静脈瘤になると、自然に治ることはありません(写真1)。

サンデー健康応援講座

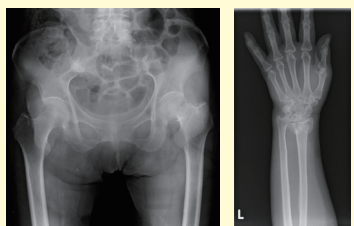
「一般撮影について」



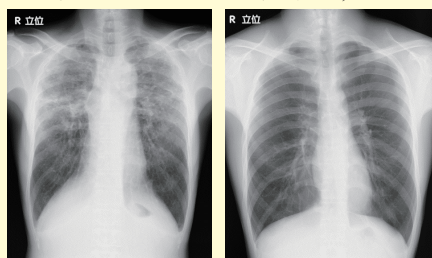
診療放射線技師 上杉 尚行

みなさん、こんにちは。中央検査放射線部の上杉と申します。今回は、放射線科での検査の中で検査数が多い一般撮影についてご紹介いたします。一般撮影とは、健康診断で行う胸部撮影や、ケガをした時に骨折の有無を調べる検査の事で、いわゆる「レントゲン写真」を撮影する検査の事です。では実際のレントゲン写真ではどのように骨折や肺炎が映るかを病変の特徴と共にご紹介いたします。

初めに骨折についてですが、高齢者に多い骨折は、手首、肩、股関節、背骨の四つの部位です。これらの骨折は、加齢による筋力の低下、運動不足などによる転倒が主な原因です。当センターでは、一番多い骨折部位として、股関節の骨折であり、そして次に多い骨折が手首の骨折です。これらの骨折をしないための対策としては、適度の運動をするなどして筋力を



つけるなど転倒しない工夫をする必要があります。次に、現在世界的に流行している新型コロナウイルスでよく耳にする機会が増えた肺炎についてですが、一般撮影にて胸部を撮影することで、肺炎を診断することができます。しかし、症状があまりない軽症者などは一般撮影では肺炎を判断するのが難しいため、CT検査が必要となることがあります。このように骨折や炎症などの検査として一般撮影が重要となることができます。また一般撮影だけでなく放射線検査は検査内容や被ばくについてなどわかりにくいことが多いと思いますので、疑問に感じたことがありましたら検査担当のスタッフに気兼ねなく質問をしていただけたらと思います。



健康応援図書紹介

2Fにある健康応援図書では、子宮がんや乳がんについて、適切な「検診」を定期的に受けていただくように、「検診」の大切さをご理解いただける本を紹介しております。「がん検診」をわかりやすく解説したパンフレットもご用意しておりますので、是非ご利用ください。今は症状のない健康な皆さまが、早期発見、予防を行うことで、数多くの命が守れるようお願いしております。正しい知識を持って「検診」への一歩を踏み出すきっかけにしましょう。

